★三月の暦

一日　全国緑化運動
三日　ひな祭・耳の日
七日　消防記念日
八日　国際婦人デー
一七日　彼岸入り
二〇日　春分（特定休日）の日
二二日　放送記念日
二五日　電気記念日

▼…ほか、奈良二月堂のお水取りが十二日。奈良春日神社祭が十三日。春闘が、ヤマ場へ。

×

写真は、四山鉱坑内機械工＝大島義幸さん（三十八歳。大牟田市小川町二十番地・小川開アパート五棟）の家の〝おひなさま〟。次女＝有紀ちゃん（生後四カ月。昨年十月二十八日誕生）のために妻＝玲子さん（三十四歳）の実家のおじいちゃんとおばあちゃんから心をこめて贈られた豪勢なもの。

ご本人の有紀ちゃんは知るや知らずや、お母さんの暖い胸に抱かれたデッカイ体（生れたとき三千九百グラムだった）がひとしお可愛いかった。

長女は千穂ちゃん。小学二年生で、千穂ちゃんもちゃんと自分のおひなさまを、おじいちゃんとおばあちゃんから買ってもらっている、というからすごい。

大災害裁判の勝利は——人間開放につながる

主婦会玉川　蓮尾文子

労災病院を訪れて

支部分会長会議を終って、予定通り「はたかぜ」で労災病院に向いました。

病院の門を入ると、冬枯れのさびしい庭を奥へ進んで面会所の下へ止まりました。

面会所へ入り、しばらく待っていると患者さんたちが二人、三人と連れだってこられました。ニコニコしている人、無表情な人、あまり気分の良くなさそうな人。

支部長が挨拶して交流が始まりました。

「ではどうぞ」、といわれても何から話したら良いかわからず、もたもたしていましたが……。

問「一日中、どのようにして過ごしていますか」

答「私たちの主な作業として、菜園部と園芸部があって、私たちは菜園部の方ばかり。会社で腹いっぱい差別されていたのに、ここへきてもやっぱり差別ですよ。午前中農作業。午後は天気が良ければソフトボール。変化のない毎日です」

問「何か、治療のための薬とか注射とかは」

答「いいえ、何もありません。とくにカゼでもひいて具合が悪ければ、そのための薬はもらいますが、天気の加減で気分が悪くなる事もあり不安な毎日です」

そんな無味乾燥な毎日を過している皆さんにとって何より嬉しいのは、土曜から日曜にかけての自宅外泊だそうです。でも家族の皆さんにとっては、嬉しいというより切ないものではないでしょうか。

いつ元の体になって退院できるのかわからぬ一家の柱を送り迎えする気持は、健康な夫と家族にかこまれて毎日暮している私には想像できぬことです。

ささやかなお見舞の品を、三池労組の患者だけでなく新労組の患者の方にも、と持参したのですが呼びかけても一人も見えられませんでした。変災から十三年、同じ病苦と闘ってきた人たちなのに、なぜ組合が違うからといって拒否されるのでしょうか、残念なことでした。

CO闘争も、十三年の年月からともすれば遠い日のことにように考えていた自分が強く反省させられたのでした。

CO裁判は人間解放の裁判であり、この裁判の勝利は、「婦人解放をさらに一歩前進させるものでもある」と、心に痛いほど感じながら帰路につきました。

俳句　酷寒

（宮浦指導部）　平田光男

二月（きさらぎ）のいてつく星も春を知る

会場の寒さもとばすやめし顔

妻の手に停年記念品（あかし）冬の窓

寒き窓組合長の目がうるむ

厚氷鯉も動けず狭き池

うらぶれも見栄も大切霜の菊

随筆

旅の思い出——

宮浦支部　森川久美子

折角の日曜というのに、トタンに吹きつける雨の音で眼が覚め、「いやだなあ」と思っているところに、いとこより「湯に行かないかあ」、という誘いの電話。

今日はちょっと行けそうになかったので断る。

主人も子供も出かけて留守で私一人。

コタツの中からボーッと外をながめていると、回りの静けさの中から、セキセイの赤ちゃんが生れたのか、巣箱の中から可愛い鳴き声が、外の雨と違って家の中を暖かく包みこんでくる。

ふと、昨年の二月隣組一泊団結旅行に行った日のいろんな思い出が、走馬灯のように浮かんできた。子供見たいに胸をはずませ、うれしさに床に入っても寝つかれず、その日は早朝五世帯三台の車に分乗して、一路出水の鶴を見に。

田んぼに、空に、舞う鶴。展望台のガラス張りの戸に、厳しい風当り。ヒュウヒュウ音をたてる電線の響きだけが、今も耳に残っている。

次の目的地は、吹上浜。なんとすばらしい、長い長い浜だったろう。

細粒の黄砂を手につかみ、思わず歓声を上げる。ほほを伝う風の冷たさも忘れ、浜の美しさに見とれたのだった。

吹上浜に心を残しながら、枕崎へ。ここは吹上浜と違って、岩に打ち砕ける波が荒々しく、男性的であった。

ここではいろんな珍貝や、可愛いいさんご等が落ちていて、みんなが子供見たいにはしゃぎながら拾い集めた。

貝の中には、父ちゃんの好きな軽石を土産に早々に引揚げ山川宿へ。

夜は、思い思いの夕食に舌づつみ。料理の盛りの多いのにびっくり。

明けて天気も良く、山川港より根占まで船の旅。一路都井岬へ。高い高い山坂道をどれだけ越えただろう。一歩踏み違えれば命も助かりっこないと思われる七曲りを無事に登りつめ、野生馬を横に見ながら都井岬の灯台へ。

灯台に登ると一層視野が開けて父ちゃんが望遠鏡で見るのは広い広い大海原だった。父ちゃん自身小さい時から旅した事もなく、生れて初めての長旅。まして、みんなと楽しく都井岬の灯台に立てた事がよほどうれしかったのだろう。

その長崎鼻を後に指宿国民宿舎の海岸に出て見たけれど、風の冷たさは一段と厳しく、震えあがり

のもあったとか。みんなの気持が一つにとけあった枕崎だった。

菜の花、大根の花等が畑一面に咲いていて、ピース等終りに近づいているのに驚いた。

車は、目指す池田湖パラダイスへ。険しい山道。高い山。幾つも幾つも越えていくと、目前に広い広い池田湖が映り、湖の色、空の色が調和していて、とてもきれいだった。

やがて開聞岳を真正面に、寄せては返す波柱。

大海原に向って「またくるぞう」と両手を上に叫んだのだった。何時もは地底で働く者の、精いっぱいの喜びだったかもしれない。

都井岬に別れを告げて日南へ。途中、お猿さんが食事するとき、穀物等を洗って食べるといわれる島の幸島を見た。

鵜戸神宮に参拝し、磨きあげられたような岩の美しさ、不思議さに目を見張った。

車中よりサボテン公園を見、堀切峠より見下す海岸線の、波状岩の美しさ。その素晴らしいながめはっきりと瞼の裏にやきついている。

青島神社、青島国民宿舎、子供の国、お淀川。この頃になるとあたりは薄暗く、市内にはいった時はネオンの灯や人の流れが目につ

いた。

一ツ瀬ダム。ここでは車からみんな下りて、ダムを見た。空には星がきらめき、冷えこんできたので車にもどり出発。

この頃から調子づいてきた。歌もいいけど、私たちにとってはなっている。

大災害裁判の勝利は——人間開放につながる

家の模様替え

主婦会福社（四山）　一主婦

暖いある日。家族そろって、家の中の整理をしました。

「といいましても、二階へ机をあげ、二階の物を下へ、と入れ替えすることです。

姉の方が中学へ、妹の方が小学へと、それぞれ進学するためです。

娘たちは自分たちの部屋の模様替えに、いつになく張り切っています。

姉は、主人愛用の机。妹は最初は納得しかねていましたが、姉の机をいただき、二階を専用できることで嬉しいようでした。

主人はメジャーをだしてあちらこちらを測りながら話し合い、一応かたづけることができました。

娘たちは、思い思いに本を入れたり、飾りものをしたりしていました。私はその無心な姿を見ながら、仲良く、ときにはケンカをしながら、お互いに独立心を養って、良き話し相手として成長していくことだろうと思いながら、階段をおりて行きました。

×

主婦の皆さん、この欄をみんなの投稿で飾りましょう。

三池から文学の火

総評が文学賞作品を募集

今総評が、第十三回総評文学賞作品を募集しています。三池からも積極的に応募して、文学の火を燃えあがらせましょう。

次の募集要領をご参考のうえ、きたる五月十日（月曜）まで組合本部編集部まで寄せて下さい。

作品募集要領

募集部門　小説・ルポルタージュ・詩。

選者　野間宏・佐多稲子・久保田正文・渡辺広士・小沢信男・小野十三郎・長谷川竜生。

賞　各部門ごとに入選、佳作、特別賞をおく。

応募規定　①応募資格＝春闘共闘傘下組合員。②作品の制限＝(イ)各部門とも題材自由。作品は書きおろし。または昭和五十年五月十六日から同五十一年五月十日までの間に各単産、県評のサークル誌、その他に発表したものも可。(ロ)各単産の推せん作品。③原稿枚数＝小説・ルポルタージュは、四百字詰原稿用紙で五十枚。詩は、百行以内。

そのほか　▼応募者は氏名、年令、住所、略歴、上部単産、県評名、単組名、職場名を明記。電話のある人は電話番号を。本名とペンネームを明確に。▼応募作品は一切返却しません。▼入選作品の版権は、総評に。